

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|------------------------|-----------------|----------|
| 科目名 | トリミング実習 I | | 指導担当者名 | 平田 芳子 |
| 実務経験 | 有 | トリミングサロンで10年以上の実務経験がある | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 168 時間 | | 週時間数 | 6 時間 |
| 学習到達目標 | <p>ドッグマネキンのカットを一人で2時間以内で仕上げることが出来る。</p> <p>トリミング作業について基礎知識を身につける。</p> | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | トリミング道具一式 | | | |
| 授業外学習の方法 | ドッグマネキンのブラッシング、用具の使用方法の予習復習、トリミングの流れの予習復習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | グルーミングの心構え | |
| | 2 | 実習用具の使用練習 | シザーの扱い方 | |
| | 3 | | シザーの扱い方② | |
| | 4 | | クリッパーの扱い方 | |
| | 5 | | 爪切り、耳掃除の仕方 | |
| | 6 | | 作業の流れの確認 | |
| | 7 | ドッグマネキン実習 | ドッグマネキンのカット① | |
| | 8 | | ドッグマネキンのカット② | |
| | 9 | | ドッグマネキンのカット③ | |
| | 10 | | ドッグマネキンのカット④ | |
| | 11 | | ドッグマネキンのカット⑤ | |
| | 12 | 期末試験 | ドッグマネキンの2時間カット | |
| | 13 | 期末試験 | 振り返り、カット修正 | |
| | 14 | 振り返り | 振り返り、カット修正 | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|------------------------|-------------------|----------|
| 科目名 | トリミング実習 I | | 指導担当者名 | 平田 芳子 |
| 実務経験 | 有 | トリミングサロンで10年以上の実務経験がある | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 168 時間 | | 週時間数 | 6 時間 |
| 学習到達目標 | <p>ドッグマネキンのカットを一人で2時間以内で仕上げることが出来る。</p> <p>トリミング作業について基礎知識を身につける。</p> | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | トリミング道具一式 | | | |
| 授業外学習の方法 | ドッグマネキンのブラッシング、用具の使用方法の予習復習、トリミングの流れの予習復習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 前期復習 | トリミングの流れの復習 | |
| | 2 | ドッグマネキン実習 | ドッグマネキンのカット① | |
| | 3 | | ドッグマネキンのカット② | |
| | 4 | | ドッグマネキンのカット③ | |
| | 5 | | ドッグマネキンのカット④ | |
| | 6 | | ドッグマネキンのカット⑤ | |
| | 7 | | ドッグマネキンのカット⑥ | |
| | 8 | モデル犬実習 | トイプードルのモデル犬カット | |
| | 9 | | チワワのモデル犬カット | |
| | 10 | | シーズーのモデル犬カット | |
| | 11 | | ポメラニアンモデル犬カット | |
| | 12 | 期末試験 | ドッグマネキンの1時間30分カット | |
| | 13 | 振り返り | 振り返り、カット修正 | |
| | 14 | 振り返り | 振り返り、カット修正 | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|---------------------------------------|-------------------------------|----------|
| 科目名 | トレーニング実習 I | | 指導担当者名 | 渡辺 亮 |
| 実務経験 | 有 | 訓練士としてしつけ教室、災害救助犬・警察犬の育成などの業務に10年以上従事 | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 168 時間 | | 週時間数 | 6 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> 動物についての基本的なしつけや、訓練の知識を総合的に養う</p> <p><到達目標> 家庭犬トレーニングインストラクターの資格を受けることができる 飼い主への総合的なアドバイスができる</p> | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | 日本ペット技能専門学校協会 トレーニング教科書 | | | |
| 授業外学習の方法 | 教科書での予習復習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | 自己紹介 | |
| | 2 | トレーニングの必要性 | しつけ 訓練について | |
| | 3 | 犬の習性を理解する | 犬の精神的本質の構成 | |
| | 4 | トレーニングの方針 | 犬種による性格の格差を知る 日常生活の中でトレーニング | |
| | 5 | 子犬の社会化期 | 仲間との接し方を学ぶ、人との接し方を学ぶ | |
| | 6 | 犬の問題行動 | 支配性の徴候 支配性の阻止 アルファシンドローム 分離不安 | |
| | 7 | リーダーとして認めさせる | 飼い主と犬、トレーナーと犬との主従関係 | |
| | 8 | アイコンタクト | アイコンタクトを教える | |
| | 9 | モチベーター | モチベーターで誘導する | |
| | 10 | 飼育犬の空間認識 | 家庭で飼育される犬の空間認識 | |
| | 11 | ほめる事と叱る事 | オペラント式訓練技法 | |
| | 12 | 社会性を養う | 他の犬に慣れさせる | |
| | 13 | トイレのしつけ | サークル内をトイレとする方法 | |
| | 14 | 食事のしつけ | 「すわれ」「まで」「よし」 | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|---------------------------------------|----------------------------------|----------|-----|
| 科目名 | トレーニング実習 I | | 指導担当者名 | 渡辺 亮 | |
| 実務経験 | 有 | 訓練士としてしつけ教室、災害救助犬・警察犬の育成などの業務に10年以上従事 | | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: | ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 168 時間 | | 週時間数 | 6 時間 | |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> 動物についての基本的なしつけや、訓練の知識を総合的に養う</p> <p><到達目標> 家庭犬トレーニングインストラクターの資格を受けることができる 飼い主への総合的なアドバイスができる</p> | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 日本ペット技能専門学校協会 トレーニング教科書 | | | | |
| 授業外学習の方法 | 教科書での予習復習 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 音符、指符 | 「おいで」「こい」 | | |
| | 2 | トレーニングの開始と終了 | トレーニング終了の始まりと終わりを犬に伝える | | |
| | 3 | 集中力を再生する | 犬の集中力を再生する | | |
| | 4 | 「スワレ」 | 座ること 子犬を遊ばせながら教える 食器を利用して教える 強制を | | |
| | 5 | 伏せからスワレ | 「フセ」の姿勢から「スワレ」 | | |
| | 6 | 行進中のスワレ | 脚測行進中のスワレ | | |
| | 7 | 後方から脚側停座 | 基本動作について | | |
| | 8 | 左側から脚側停座 | 基本動作について | | |
| | 9 | 「フセ」 | 「フセ」の指符 | | |
| | 10 | 脚測行進 | スワレの指符 | | |
| | 11 | 脚測行進 | スワレからのタツテ | | |
| | 12 | 脚測行進 | タツテの指符 | | |
| | 13 | 脚測行進 | スワレからのタツテ | | |
| | 14 | 講評 | まとめ | | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|-----------------------|-----------------------|----------|
| 科目名 | 飼養管理士概論 I | | 指導担当者名 | 佐藤 智子 |
| 実務経験 | 有 | トリミングサロンで5年以上の実務経験がある | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科1年 |
| 授業方法 | 講義: ○ | 演習: | 実習: | 実技: |
| 年間時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2 時間 |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 ・社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。 ・愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | 愛玩動物飼養管理士2級教本 1, 2巻 | | | |
| 授業外学習の方法 | 予習復習、課題報告問題を解く | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | 第 I 編 愛玩動物飼養管理士の社会活動 | 第1章公益社団法人日本愛玩協会の目的・事業 | |
| | 2 | | 第2章愛玩飼養管理士 | |
| | 3 | 第 II 編 動物愛護論 I | 第1章人は動物をどのように見てきたのか | |
| | 4 | | 第2章近代的動物愛護運動の始まり | |
| | 5 | | 第3章現代の動物愛護運動との思想 | |
| | 6 | 第 III 編 人と動物の関係学 | 第1章互いに影響しあう人と動物 | |
| | 7 | | 第2章人を支える動物たち | |
| | 8 | | 第3章動物から子供が学ぶこと | |
| | 9 | 第 IV 編 動物関係法令概説 | 第1章動物と法律との関係 | |
| | 10 | | 第2章動物の愛護及び管理に関する法律 | |
| | 11 | | 第3章動物の飼養及び保管に関する基準法 | |
| | 12 | | 第4章家庭飼育動物に関わる関係法令 | |
| | 13 | | 第5章野生動物にかかわる関係法令 | |
| | 14 | | 期末テスト | 期末テスト |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|-----------------------|----------------------------|----------|
| 科目名 | 飼養管理士概論 I | | 指導担当者名 | 佐藤 智子 |
| 実務経験 | 有 | トリミングサロンで5年以上の実務経験がある | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科1年 |
| 授業方法 | 講義: | ○ | 演習: | 実習: |
| 年間時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2 時間 |
| 学習到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 ・社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。 ・愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは。A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | 愛玩動物飼養管理士2級教本 1, 2巻 | | | |
| 授業外学習の方法 | 予習復習、課題報告問題を解く | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 第V編動物のからだの仕組みと働き | 第1章体の基本の仕組み | |
| | 2 | | 第2章栄養を取り入れる | |
| | 3 | | 第3章酸素を取り入れる | |
| | 4 | | 第4章老廃物の排出、異物の撃退と解毒 | |
| | 5 | | 第5章情報を取り入れる | |
| | 6 | | 第5章情報を取り入れる | |
| | 7 | | 第7章子どもを産み育てる | |
| | 8 | 第VI編動物の飼養管理 | 第1章動物の飼養管理(総論) | |
| | 9 | | 第2章犬の飼養管理 第3章猫の飼養管理 | |
| | 10 | | 第4章その他の哺乳類の飼養管理 第5章鳥類の飼養管理 | |
| | 11 | 第VII編動物のしつけ | 第1章学習理論 第2章犬と猫の社会化 | |
| | 12 | | 第3章犬のしつけの基本 | |
| | 13 | | 第4章室内飼育猫の死受け基本 | |
| | 14 | 期末テスト | 期末テスト | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|---|----------------------------|--------------------------------|
| 科目名 | 犬学 I | 指導担当者名 | 坂元 幸江 |
| 実務経験 | 有 | 動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 ペット総合科1年 |
| 授業方法 | 講義: ○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 年間時間数 | 56 時間 | | 週時間数 2 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の基礎知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p> | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | |
| 使用教材 | めざせ早期発見！わかる犬の病気 | | |
| 授業外学習の方法 | 病気について予習復習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | 第1トリミング前に確認したい全身チェックとうつる病気 | 1 全身チェック |
| | 2 | 第1トリミング前に確認したい全身チェックとうつる病気 | 2 人や動物にうつる恐れのある病気 |
| | 3 | 第2章早期発見するための部位別病気の知識 | 1 皮膚の病気 |
| | 4 | 第2章早期発見するための部位別病気の知識 | 2 耳の病気 |
| | 5 | 第2章早期発見するための部位別病気の知識 | 3 目の病気 |
| | 6 | 第2章早期発見するための部位別病気の知識 | 4 鼻と口の病気 |
| | 7 | 第2章早期発見するための部位別病気の知識 | 5 おしり・お腹周りの病気 |
| | 8 | 第2章早期発見するための部位別病気の知識 | 6 足先・膝・腰まわりの病気 |
| | 9 | 第3章トリマーペットショップスタッフ必須の基礎知識 | 1 シャンプーの基礎知識 |
| | 10 | 第3章トリマーペットショップスタッフ必須の基礎知識 | 2 トリミングサロン・ペットショップ内の正しい清掃・消毒方法 |
| | 11 | 第3章トリマーペットショップスタッフ必須の基礎知識 | 3 ワクチンの基礎知識 |
| | 12 | 前期期末試験対策 | 復習 |
| | 13 | 前期期末試験対策 | 復習 |
| | 14 | 前期期末試験 | 前期期末試験 |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|--|----------------------------|---------------------------|
| 科目名 | 犬学 I | 指導担当者名 | 坂元 幸江 |
| 実務経験 | 有 | 動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 ペット総合科1年 |
| 授業方法 | 講義: ○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 年間時間数 | 56 | 時間 | 週時間数 2 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の基礎知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p> | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | |
| 使用教材 | めざせ早期発見！わかる犬の病気 | | |
| 授業外学習の方法 | 病気について予習復習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 第4章飼い主さんへの病気説明 | アレルギー、外耳炎、角膜炎 |
| | 2 | | 肛門嚢炎、股関節形成不全、子宮蓄膿症、 |
| | 3 | | 歯周病、糖尿病、 |
| | 4 | | 白内障、緑内障、 |
| | 5 | | 結膜炎 |
| | 6 | | マダニ、ノミについて |
| | 7 | 第5章トリミングトラブル | 1 爪切りで出血させてしまった |
| | 8 | | 2 目がしょぼしょぼする |
| | 9 | | 3 フケが多くなった |
| | 10 | | 4 嘔吐、下痢 |
| | 11 | | 5 血尿がでてしまった |
| | 12 | | 6 片足立ちになっている、足腰が立たない |
| | 13 | | 7 足先をなめている 8いぼや皮膚を切ってしまった |
| | 14 | 後期期末テスト | 後期期末テスト |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|------------------------|--|----------|
| 科目名 | ペット美容演習 I | | 指導担当者名 | 平田 芳子 |
| 実務経験 | 有 | トリミングサロンで10年以上の実務経験がある | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科1年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: ○ | 実習: | 実技: |
| 年間時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> スタンドの理解と、各犬体各種のカット、クリッピングの手順、形、ラインなどを学ぶ。 実社会で使用する最低限度の用語等を習得する。モデル犬受付業務の流れ。</p> <p><到達目標> カットスタイル習得。一人で2~3時間以内で仕上げまでトリミング実習での実践できるようにする。モデル犬受付業務の習得。バリカン使用の習得。</p> | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。 | | | |
| 使用教材 | 日本ペットビジネススクール協会 ペット美容学 インターズー プロフェッショナルワークブック | | | |
| 授業外学習の方法 | ペット美容学教科書の予習復習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | 自己紹介 | |
| | 2 | 犬体用語・毛色用語・被毛用語・ペット美容用語 | 犬体各部の名所 | |
| | 3 | GM道具の手入れについて | 道具の取り扱い | |
| | 4 | ペット美容用語 | 用語解説 | |
| | 5 | トリミング用具・ハサミ | ハサミの手入れについて | |
| | 6 | ハサミの基本技法 | ハサミの持ち方 | |
| | 7 | ブラシ、コーム、クリッパー | 取り扱い | |
| | 8 | 爪切り、ドライヤー、テーブル | 使い方 | |
| | 9 | リボンの作り方 | 実践で使える手作りリボンの解説 | |
| | 10 | 爪の手入れ | 犬の爪切り | |
| | 11 | パッド、目、歯の手入れ | パッドの手入れ、目の手入れ、歯の手入れ | |
| | 12 | 耳の手入れ 肛門の手入れ | 耳の手入れ 耳の中の毛を抜く 耳の汚れをふき取る 肛門囊の絞り方 | |
| | 13 | シャンプー ドライング | シャンプーの必要性 シャンプーの目的 シャンプーの前処理 シャンプーの弊害と対策 | |
| | 14 | まとめ | 期末試験 | |
| 履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|------------------------|---------------------------------------|----------|--|
| 科目名 | ペット美容演習 I | | 指導担当者名 | 平田 芳子 | |
| 実務経験 | 有 | トリミングサロンで10年以上の実務経験がある | | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科1年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: ○ | 実習: | 実技: | |
| 年間時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2 時間 | |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> スタンドの理解と、各犬体各種のカット、クリッピングの手順、形、ラインなどを学ぶ。 実社会で使用する最低限度の用語等を習得する。モデル犬受付業務の流れ。</p> <p><到達目標> カットスタイル習得。一人で2~3時間以内で仕上げまでトリミング実習での実践できるようにする。モデル犬受付業務の習得。バリカン使用の習得。</p> | | | | |
| 評価方法 評価基準 | 学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。 | | | | |
| 使用教材 | 日本ペットビジネススクール協会 ペット美容学 インターズー プロフェッショナルワークブック | | | | |
| 授業外学習の方法 | ペット美容学教科書の予習復習 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授 業 計 画 後 期 | 1 | リンシング | リンシングの目的 リンス剤の種類 | | |
| | 2 | 作業困難な犬柄の対処 | 安全な保定のしかた | | |
| | 3 | マルチーズのグルーミング | シザー仕上げ クリッパー仕上げの方法 | | |
| | 4 | ヨークシャテリアのグルーミング | ペットトリムとショークリップの違い | | |
| | 5 | シーズーのグルーミング | ペットトリムとショークリップの違い | | |
| | 6 | ポメラニアン of グルーミング | ショークリップ 柴カット について | | |
| | 7 | アメリカンコッカースパニエルのペットトリム | クリッパーの使い方 | | |
| | 8 | アメリカンコッカースパニエルのショートトリム | クリッパーとスキバサミの取り扱い | | |
| | 9 | プードルのペットクリップ | ラムクリップ スイートハート ダッチ ハリウッド マイアミ | | |
| | 10 | プードルのショークリップ | バビークリップ コンチネンタル イングリッシュサドルクリップ | | |
| | 11 | プードル各部の仕上げ | ボンボンの作り方、スウェル、プレスレッド、ローゼット、レッグバリエーション | | |
| | 12 | プードルの理想体型 | ドワーフタイプとハイオンタイプの違い | | |
| | 13 | トイプードル(ラムクリップ) | 作業工程と注意点 | | |
| | 14 | まとめ | 期末試験 | | |
| 履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|-----------------------|--|---------------|
| 科目名 | トリミングサロン実習 | | 指導担当者名 | 平田 芳子 |
| 実務経験 | 有 | トリミングサロンで10年超の実務経験がある | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科2年(選択者) |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 336 時間 | | 週時間数 | 12 時間 |
| 学習到達目標 | <p>モデル犬のトリミングを通し、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等を習得を図る。グループ行動を通しコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>トイプードルの一通りのトリミング作業が一人で出来る。 サロンへ就職希望の者は、1日2頭を仕上げることが出来る。</p> | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | トリミング道具一式 | | | |
| 授業外学習の方法 | トリミング作業手順を予習復習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | 復習 モデル犬実習 | 作業の流れ、道具の使い方、コミュニケーションを重点指導 | |
| | 2 | モデル犬実習 | ブードル、シーズーのモデル犬カット | |
| | 3 | モデル犬実習 | ブードル、シーズー、ポメラニアンモデル犬カット | |
| | 4 | モデル犬実習 | ブードル、ヨークシャテリア、ダックスフントのモデル犬カット | |
| | 5 | モデル犬実習 | ブードル、チワワ、マルプーのモデル犬カット | |
| | 6 | モデル犬実習 | ブードル、柴犬、ゴールデンレトリバーのモデル犬カット | |
| | 7 | モデル犬実習 | ブードル、パピヨン、ヨークシャテリアのモデル犬カット | |
| | 8 | モデル犬実習 | ブードル、ポメラニアン、チワワのモデル犬カット | |
| | 9 | モデル犬実習 | ブードル、シュナウザー、ペキニーズのモデル犬カット | |
| | 10 | モデル犬実習 | ブードル、ビションフリーゼ、ヨークシャテリアのモデル犬カット | |
| | 11 | モデル犬実習 | ブードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット | |
| | 12 | モデル犬実習 | ブードル、イングリッシュセッター、シェットランドシープドッグのモデル犬カット | |
| | 13 | モデル犬実習 | ブードル、柴犬、ジャックラッセルのモデル犬カット | |
| | 14 | モデル犬実習 前期反省 | ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|---|-----------------------|--|-------------------------|-----|
| 科目名 | トリミングサロン実習 | | 指導担当者名 | 平田 芳子 | |
| 実務経験 | 有 | トリミングサロンで10年超の実務経験がある | | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科2年(選択者) | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: | ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 336 時間 | | 週時間数 | 12 時間 | |
| 学習到達目標 | <p>モデル犬のトリミングを通し、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等を習得を図る。グループ行動を通しコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>トイプードルの一通りのトリミング作業が一人で出来る。 サロンへ就職希望の者は、1日2頭を仕上げることが出来る。</p> | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | トリミング道具一式 | | | | |
| 授業外学習の方法 | トリミング作業手順を予習復習 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | モデル犬実習 | プードル、シーズーのモデル犬カット | | |
| | 2 | モデル犬実習 | プードル、シーズー、ポメラニアンモデル犬カット | | |
| | 3 | モデル犬実習 | プードル、ヨークシャテリア、ダックスフントのモデル犬カット | | |
| | 4 | モデル犬実習 | プードル、チワワ、マルプーのモデル犬カット | | |
| | 5 | モデル犬実習 | プードル、柴犬、ゴールデンレトリバーのモデル犬カット | | |
| | 6 | モデル犬実習 | プードル、パピヨン、ヨークシャテリアのモデル犬カット | | |
| | 7 | モデル犬実習 | プードル、ポメラニアン、チワワのモデル犬カット | | |
| | 8 | モデル犬実習 | プードル、シュナウザー、ペキニーズのモデル犬カット | | |
| | 9 | モデル犬実習 | プードル、ビションフリーゼ、ヨークシャテリアのモデル犬カット | | |
| | 10 | モデル犬実習 | プードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット | | |
| | 11 | モデル犬実習 | プードル、イングリッシュセッター、シェットランドシープドッグのモデル犬カット | | |
| | 12 | モデル犬実習 | プードル、柴犬、ジャックラッセルのモデル犬カット | | |
| | 13 | モデル犬実習 | プードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット | | |
| | 14 | モデル犬実習 | 反省 | プードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|---------------------------------------|--|---------------|
| 科目名 | トレーニング実習Ⅱ | | 指導担当者名 | 渡辺 亮 |
| 実務経験 | 有 | 訓練士としてしつけ教室、災害救助犬・警察犬の育成などの業務に10年以上従事 | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科2年(選択者) |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 336 時間 | | 週時間数 | 12 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> 動物についての基本的なしつけや訓練の知識を総合的に養う</p> <p><到達目標> 家庭犬トレーニングインストラクターの資格を受ける事ができる 飼い主さんへの総合的なアドバイスができる</p> | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | 日本ペットビジネススクール協会 トレーニング教科書 | | | |
| 授業外学習の方法 | トレーニング教科書の予習復習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | 授業の説明 | |
| | 2 | 座って「マテ」 | 座ってマテ「対面して離れる」 脚測行進中の座って「マテ」 | |
| | 3 | 伏せて「マテ」 | 脚測行進中の伏せて「マテ」 | |
| | 4 | 立って「マテ」 | 脚測行進中の視符と練習 脚測行進中の立って「マテ」 | |
| | 5 | 「コイ」 | コイを教える 呼ばれてくる リードを使ったトレーニング 「コイ」から脚測定座 | |
| | 6 | 「脚側行進」 | リーダーウォーク 脚測行進の視符「アトエ」 犬の引き癖を矯正する | |
| | 7 | 行進中の「右ターン」 | 脚測行進中の右ターンの注意点 | |
| | 8 | 行進中の「左ターン」 | 脚測行進中の左ターンの注意点 | |
| | 9 | 行進中の「Uターン」 | 脚測行進中のUターンの注意点 | |
| | 10 | 行進中の「速さの変更」 | 早いペースの脚測行進 遅いペースの脚測行進 | |
| | 11 | 「ヤスメ」 | ヤスメ姿勢 | |
| | 12 | 「ホエロ」 | 「吠えろ」と「静かに」 吠えろのトレーニング | |
| | 13 | 「モッテコイ」1 「モッテコイ」2 | モチベーションの上げ方 | |
| | 14 | 前期の反省と講評 | 実技試験 | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|---|---------------------------------------|-----------------------------|---------------|-----|
| 科目名 | トレーニング実習Ⅱ | | 指導担当者名 | 渡辺 亮 | |
| 実務経験 | 有 | 訓練士としてしつけ教室、災害救助犬・警察犬の育成などの業務に10年以上従事 | | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科2年(選択者) | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: | ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 336 時間 | | 週時間数 | 12 時間 | |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> 動物についての基本的なしつけや訓練の知識を総合的に養う</p> <p><到達目標> 家庭犬トレーニングインストラクターの資格を受ける事ができる 飼い主さんへの総合的なアドバイスができる</p> | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | 日本ペットビジネススクール協会 トレーニング教科書 | | | | |
| 授業外学習の方法 | トレーニング教科書の予習復習 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 「トベ」 | 障害飛越 掛け声のかけ方 | | |
| | 2 | 「センドアウェイ」1 | センドアウェイのモチベーター | | |
| | 3 | 「センドアウェイ」2 | トレーニングと注意点 | | |
| | 4 | 「遠隔操作」 | スワレからタツテ フセからスワレ フセからタツテ | | |
| | 5 | 「嗅覚識別」 | 嗅覚識別と犬の本能 | | |
| | 6 | グットシチズン・ドック計画 | ヒール リコール ステイにつて | | |
| | 7 | KC服従トレーニング試験 | KC服従トレーニング試験についての概要と説明 | | |
| | 8 | アジリティ | 競技方法 説明 | | |
| | 9 | フライングディスク・ドック | ディスタンス フリースタイル ロングスロー 用語説明 | | |
| | 10 | フライボール | 協議説明 | | |
| | 11 | トレーナーとクライアント | 助言の方法 クライアントとの面接 デモンストレーション | | |
| | 12 | 総合トレーニング | デモンストレーション見学 | | |
| | 13 | 用語確認 | 復習と確認テスト | | |
| | 14 | 後期の反省と講評 | 実技試験 | | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | |
|---|---|------------------------------|--------------------|
| 科目名 | 犬学Ⅱ | 指導担当者名 | 坂元 幸江 |
| 実務経験 | 有 | 動物病院にて動物病院看護師として20年超の実務経験がある | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 ペット総合科2年 |
| 授業方法 | 講義: ○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 年間時間数 | 56 時間 | | 週時間数 2 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の応用知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p> | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | |
| 使用教材 | 看護学教本 | | |
| 授業外学習の方法 | 病気について予習復習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 前期 | 1 | 内科学 | 救急医療 |
| | 2 | 内科学 | 中毒 |
| | 3 | 内科学 | 出血 |
| | 4 | 内科学 | 日射病・熱中症 |
| | 5 | 内科学 | ショック |
| | 6 | 内科学 | 輸液治療(輸液、採血時の準備と保定) |
| | 7 | 臨床検査学 | 血液検査 |
| | 8 | 臨床検査学 | ヘマトクリット |
| | 9 | 臨床検査学 | 血液塗抹標本 |
| | 10 | 臨床検査学 | 顕微鏡検査 |
| | 11 | 臨床検査学 | 尿検査、糞便検査 |
| | 12 | 前期期末試験対策 | 復習 |
| | 13 | 前期期末試験対策 | 復習 |
| | 14 | 前期期末試験 | 前期期末試験 |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | 犬学Ⅱ | 指導担当者名 | 坂元 幸江 |
|---|--|------------------------------|--------------------|
| 実務経験 | 有 | 動物病院にて動物病院看護師として20年超の実務経験がある | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 ペット総合科2年 |
| 授業方法 | 講義: ○ | 演習: | 実習: 実技: |
| 年間時間数 | 56 | 時間 | 週時間数 2 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の応用知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p> | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | |
| 使用教材 | 看護学教本 | | |
| 授業外学習の方法 | 病気について予習復習 | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 介護学 | 犬の老化 |
| | 2 | 介護学 | ペットの高齢化 |
| | 3 | 介護学 | 高齢犬介護の心構え |
| | 4 | 介護学 | 高齢犬の病気 |
| | 5 | 介護学 | 高齢犬の食餌管理 |
| | 6 | 介護学 | 食餌の介助 |
| | 7 | 介護学 | 犬の床ずれ |
| | 8 | 介護学 | 犬の痴呆症 |
| | 9 | 介護学 | 排泄の介助 |
| | 10 | 介護学 | 散歩の効用 |
| | 11 | 介護学 | 介護と臭い対策 |
| | 12 | 介護学 | 介護士と医療行為 |
| | 13 | 介護学 | 介護動物とマッサージ、飼育者と介護士 |
| | 14 | 後期期末テスト | 後期期末テスト |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | |

授業計画(シラバス)

| 科目名 | 飼養管理士1級概論Ⅱ | | 指導担当者名 | 坂元 幸江 |
|---|---|------------------------------|-----------------------|----------|
| 実務経験 | 有 | 動物病院にて動物病院看護師として20年超の実務経験がある | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科2年 |
| 授業方法 | 講義: ○ | 演習: | 実習: | 実技: |
| 年間時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨></p> <ul style="list-style-type: none"> 動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 社会のニーズに対応できる実践的応用力を身に付ける。 愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | 愛玩飼養管理士1級 教本上下、ペット災害危機管理士4級教本 | | | |
| 授業外学習の方法 | 教科書の予習復習 課題報告問題を解 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | オリエンテーション | 授業説明、使用教材についての理解 | |
| | 2 | 第1編 動物愛護論Ⅱ | 第1章 日本における動物愛護運動のおこり | |
| | 3 | | 第2章 第二次世界大戦後の動物愛護運動 | |
| | 4 | | 第3章 動物愛護の今後の展望 | |
| | 5 | 第Ⅲ編 動物の行動と社会 | 第1章 動物と法律 | |
| | 6 | | 第2章 飼養動物と関係法令 | |
| | 7 | | 第3章 野生動物と関係法令 | |
| | 8 | 動物の行動と社会 | 第1章 行動とは何か、社会とは何か | |
| | 9 | | 第2章 行動の進化・第3章 行動の自然選択 | |
| | 10 | | 第3章 ライフステージと栄養・第4章 | |
| | 11 | | 第4章 犬と猫のペットフードの進展 | |
| | 12 | 課題報告問題 | 問題集1~50 | |
| | 13 | | 問題集50~100 | |
| | 14 | 期末テスト | 期末テスト | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|---|------------------------------|----------------------|----------|
| 科目名 | 飼養管理士1級概論Ⅱ | | 指導担当者名 | 坂元 幸江 |
| 実務経験 | 有 | 動物病院にて動物病院看護師として20年超の実務経験がある | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科2年 |
| 授業方法 | 講義: | ○ | 演習: | 実習: |
| 年間時間数 | 56 時間 | | 週時間数 | 2 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨></p> <ul style="list-style-type: none"> 動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 社会のニーズに対応できる実践的応用力を身に付ける。 愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | 愛玩飼養管理士1級 教本上下、ペット災害危機管理士4級教本 | | | |
| 授業外学習の方法 | 教科書の予習復習 課題報告問題を解 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | 第Ⅴ編 動物の遺伝と繁殖生理 | 第一章 動物の遺伝 | |
| | 2 | | 第二章 動物の繁殖生理 | |
| | 3 | 第Ⅵ編 動物の疾病とその予防 | 第1章動物の疾病とその予防 | |
| | 4 | | 第2章犬の疾病とその予防 | |
| | 5 | | 第3章猫の疾病とその予防 | |
| | 6 | | 第4章その他の哺乳類の疾病とその予防 | |
| | 7 | | 第5章鳥類の疾病とその予防 | |
| | 8 | | 第6章爬虫類の疾病とその予防 | |
| | 9 | 第Ⅶ編 動物の飼養管理と公衆衛生 | 第1章人動物の共生に必要な公衆衛生の課題 | |
| | 10 | | 第2章人と動物の共通感染症とその対策 | |
| | 11 | | 第3章動物愛護行政と地域活動 | |
| | 12 | 第Ⅶ編 自然と人間 | 第1章 自然環境と世界の働き | |
| | 13 | | 第2章 自然環境と人間のかかわり | |
| | 14 | 課題報告問題 | 問題集101~127 | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | |
|---|--|---------------------------|--|-------------------------|
| 科目名 | トリミング実習Ⅱ | | 指導担当者名 | 平田 芳子 |
| 実務経験 | 有 | ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。 | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科2年 |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 168 時間 | | 週時間数 | 6 時間 |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> モデル犬のトリミングを通し、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等の習得を図る。グループ行動を通しコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p><到達目標> 一通りのトリミング作業を二人で仕上げる事が出来る。(トレーナーコース) 一通りのトリミング作業を一人で仕上げる事が出来る。(トリマーコース)</p> | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | |
| 使用教材 | トリミング道具一式 | | | |
| 授業外学習の方法 | トリミング作業の予習復習 | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | |
| 授業 計画 前期 | 1 | 復習 モデル犬実習 | 作業の流れ、道具の使い方、コミュニケーションを重点指導 | |
| | 2 | モデル犬実習 | ブードル、シーズーのモデル犬カット | |
| | 3 | モデル犬実習 | ブードル、シーズー、ポメラニアンモデル犬カット | |
| | 4 | モデル犬実習 | ブードル、ヨークシャテリア、ダックスフントのモデル犬カット | |
| | 5 | モデル犬実習 | ブードル、チワワ、マルプーのモデル犬カット | |
| | 6 | モデル犬実習 | ブードル、柴犬、ゴールデンレトリバーのモデル犬カット | |
| | 7 | モデル犬実習 | ブードル、パピヨン、ヨークシャテリアのモデル犬カット | |
| | 8 | モデル犬実習 | ブードル、ポメラニアン、チワワのモデル犬カット | |
| | 9 | モデル犬実習 | ブードル、シュナウザー、ペキニーズのモデル犬カット | |
| | 10 | モデル犬実習 | ブードル、ビションフリーゼ、ヨークシャテリアのモデル犬カット | |
| | 11 | モデル犬実習 | ブードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット | |
| | 12 | モデル犬実習 | ブードル、イングリッシュセッター、シェットランドシープドッグのモデル犬カット | |
| | 13 | モデル犬実習 | ブードル、柴犬、ジャックラッセルのモデル犬カット | |
| | 14 | モデル犬実習 | 前期反省 | ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | |

授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|--|---------------------------|--|-------------------------|-----|
| 科目名 | トリミング実習Ⅱ | | 指導担当者名 | 平田 芳子 | |
| 実務経験 | 有 | ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。 | | | |
| 開講時期 | 通年 | 28ターム | 対象学科学年 | ペット総合科2年 | |
| 授業方法 | 講義: | 演習: | 実習: | ○ | 実技: |
| 年間時間数 | 168 時間 | | 週時間数 | 6 時間 | |
| 学習到達目標 | <p><科目主旨> モデル犬のトリミングを通し、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等の習得を図る。グループ行動を通しコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p><到達目標> 一通りのトリミング作業を二人で仕上げる事が出来る。(トレーナーコース) 一通りのトリミング作業を一人で仕上げる事が出来る。(トリマーコース)</p> | | | | |
| 評価方法 評価基準 | <p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p> | | | | |
| 使用教材 | トリミング道具一式 | | | | |
| 授業外学習の方法 | トリミング作業の予習復習 | | | | |
| 学期 | ターム | 項目 | 内容・準備資料等 | | |
| 授業 計画 後 期 | 1 | モデル犬実習 | プードル、シーズーのモデル犬カット | | |
| | 2 | モデル犬実習 | プードル、シーズー、ポメラニアンモデル犬カット | | |
| | 3 | モデル犬実習 | プードル、ヨークシャテリア、ダックスフントのモデル犬カット | | |
| | 4 | モデル犬実習 | プードル、チワワ、マルプーのモデル犬カット | | |
| | 5 | モデル犬実習 | プードル、柴犬、ゴールデンレトリバーのモデル犬カット | | |
| | 6 | モデル犬実習 | プードル、パピヨン、ヨークシャテリアのモデル犬カット | | |
| | 7 | モデル犬実習 | プードル、ポメラニアン、チワワのモデル犬カット | | |
| | 8 | モデル犬実習 | プードル、シュナウザー、ペキニーズのモデル犬カット | | |
| | 9 | モデル犬実習 | プードル、ビションフリーゼ、ヨークシャテリアのモデル犬カット | | |
| | 10 | モデル犬実習 | プードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット | | |
| | 11 | モデル犬実習 | プードル、イングリッシュセッター、シェットランドシープドッグのモデル犬カット | | |
| | 12 | モデル犬実習 | プードル、柴犬、ジャックラッセルのモデル犬カット | | |
| | 13 | モデル犬実習 | プードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット | | |
| | 14 | モデル犬実習 | 反省 | プードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット | |
| <p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 | | | | | |